

# 内モンゴル語の親族呼称の実態

——ホルチン方言を中心に——

哈申格日勒

## On the Actual State of Kinship Terminology in the Inner Mongolian Language — With Special Reference to Horuchin Dialect —

Hashen GERILE

### Abstract

This paper aims to do research on the condition and linguistic characteristics of the kinship terminology of Inner Mongolian, focusing on the Horchin Dialect.

The Horchin region was among the first that the Han people moved to and the first change that was brought about was in agriculture. The largest number of Chinese-Mongolians lives in large groups.

The distinction between native Inner-Mongolian words and borrowed words from Chinese can be recognized. In other words, the terms concerning family relationships are mostly native Inner-Mongolian, and, on the contrary, the kinship terms on the father's side and mother's side, especially on the father's side, are rather largely influenced by Chinese.

キーワード：内モンゴル語，ホルチン方言，親族呼称，漢語借用語

### 目次

- 1 はじめに
- 2 先行研究
- 3 ホルチン方言について
- 4 調査概要
- 5 調査結果
- 6 ホルチン方言の親族呼称の実態
- 7 まとめ

## 1 はじめに

中国には、内モンゴル自治区をはじめとして、黒龍江省、吉林省、遼寧省、甘肅省、青海省、新疆ウイグル自治区などにおよそ 580 万のモンゴル人が暮らしており、これらのモンゴル族によって話されるモンゴル語を「内モンゴル語」という<sup>1</sup>。

内モンゴル自治区は中国においては最も早い時期に成立した民族自治区であり、中国領域のモンゴル族の約 70%がここに居住している。内モンゴル自治区は中国北部地域に位置し、北はモンゴル国とロシア連邦と接している。北東から南西の方に斜めに伸び、面積は 1,183,000 平方キロメートルであり、総人口は 2375.54 万人（2000 年第 5 回国勢調査<sup>2</sup>）に達する。しかしながら住民の 79.24%を漢族が占め、これに対してモンゴル族は 16.96%を占めるという高度な接触の中に置かれており、民族言語である内モンゴル語は漢語（中国語）の影響を強く受けている。特に親族語彙に与える漢語の影響が顕著とみられる<sup>3</sup>。

## 2 先行研究

内モンゴル語の親族語彙が漢語から受ける影響についての先行研究としては、曹道巴特爾（2004）、那順巴依爾（2005）、ムングンゲレル（2008）が挙げられる。曹道巴特爾（2004）はアンケート調査を基にして内モンゴル語の三大方言の親族呼称の地域差を考察し、農業地域の諸方言の親族語彙においては漢語からの借用語が多く存在していることを明らかにし、その主な要素は文化接触であると述べている。那順巴依爾（2005）はチャハル方言の親族語彙体系を親族制度の変容と関連づけて考察し、漢族親族制度の影響で内モンゴル語の親族呼称と分類は説明式（*descriptive*）呼称をさらに重視するようになっていくと述べている。ムングンゲレル（2008）は面接調査資料を基に、内モンゴル東部地域諸方言の親族語彙の実態を分析し、中国領域のモンゴル族の言語生活のバイリンガル状況の実態及びその地域差の一端を明らかにしている。以上の先行研究の主な目的は内モンゴル語諸方言の親族語彙の変容から中国領域のモンゴル族の言語生活のバイリンガル状況の実態を明らかにすることである。

本稿では、ホルチン方言における親族呼称の構成からその親族呼称体系の特徴を考察する。

## 3 ホルチン方言について

### 3.1 ホルチン方言の位置

内モンゴル語の方言分類はきわめて多様である。『言語学大辞典』によると<sup>4</sup>、内モンゴル語の口語方言は、西部方言、東北部方言、中部方言と大別され、それぞれ多様な下位方言を含む（図 1 を参照）。

<sup>1</sup> 中国領域内のモンゴル族に話されるモンゴル語はモンゴル国のモンゴル語と同一の言語であるが、両者は全く異なる文字を用いるため、日本語で区別し「内蒙古語」と呼び、「内モンゴル語」も同義で用いられている。亀井孝 河野六郎 千野栄一編 1996 『言語学大辞典』第 2 巻 世界言語編 三省堂 1427 頁。

<sup>2</sup> 2000 年第 5 回国勢調査については、中華人民共和国国家統計局「<http://www.stats.gov.cn/>」により参照できる。

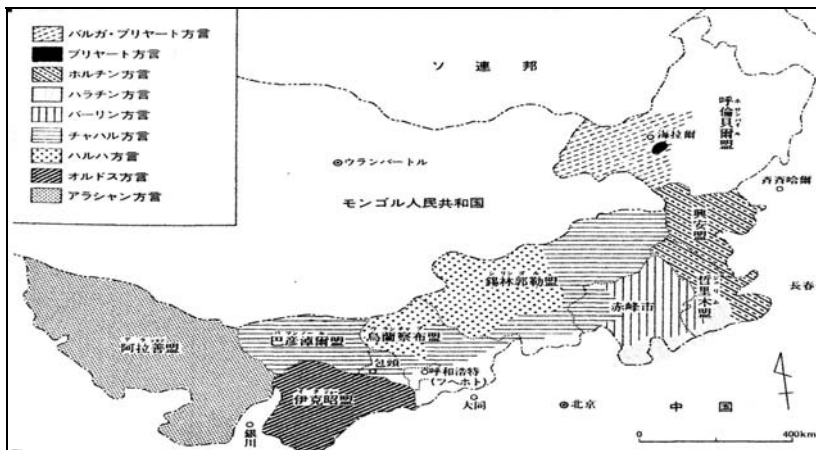
<sup>3</sup> 波・索徳 2005 「蒙古语科尔沁土语中的汉借字词」 『民族语言』第 5 期 79 頁。

<sup>4</sup> 前掲『言語学大辞典』第 2 巻 世界言語編 1429～1431 頁。

- ①西部方言：新疆ウイグル自治区，青海，甘肅省のモンゴル族によって話されている。下位方言としては，新疆方言，海西，肅北方言がある。
- ②東北部方言：内モンゴル自治区の呼倫貝爾市のモンゴル族によって話されている。下位方言としては，新バルガ方言，陳バルガ方言，ブリヤート方言がある。
- ③中部方言：呼倫貝爾市南部以南，内モンゴル自治区のほぼ全域にわたる拡大な領域に分布し，下位方言として，ホルチン方言，ハラチン方言，バーリン方言，チャハル方言，ハルハ方言，オルドス方言，アラシヤン方言がある。

本稿の対象とするホルチン方言は内モンゴル自治区の哲里木盟（うち，奈曼旗と庫倫旗を除く）と興安盟を中心に話されており，部族方言としては科爾沁<sup>ホルチン</sup>，紮賚特<sup>ジャライト</sup>，紮魯特<sup>ジャロート</sup>方言がある（黒龍江省の杜爾伯特<sup>ドルベト</sup>と吉林省の郭爾羅斯<sup>ゴルロス</sup>方言もホルチン方言の部族方言となる）。歴史的に見ると当該地域のモンゴル族は 20 世紀初頭から，開墾が急激に進められ，漢族が大幅に増加し，このような接触がおよそ 100 年に及んでいる。しかしながら，当該地域はモンゴル族の最も集中し居住している地域であり（表 1 を参照），漢族の入り込む余地が小さいため最も生命力がある方言といえよう。

図 1 内モンゴル語の方言分布



出典：『言語学大辞典』第 2 巻 世界言語編 1429 頁。

表1 内モンゴル自治区各盟市<sup>5</sup> のモンゴル族、漢族の人口比較

地域	総人口	モンゴル族		漢 族	
		人 口	%	人 口	%
阿拉善盟	196,279	44,630	22.74	140,900	71.79
巴彥淖爾市	1,682,662	76,368	4.54	1,579,697	93.9
鄂爾多斯市	1,369,766	155,845	11.38	1,207,971	88.19
包頭市	2,254,439	67,209	2.98	2,122,737	94.16
呼和浩特市	2,140,000	204,846	8.56	2,115,888	88.42
烏蘭察布市	2,284,414	60,064	2.63	2,203,345	96.45
錫林郭勒盟	975,168	254,995	29.23	651,174	66.78
赤峰市	4,610,000	830,357	18.72	3,441,581	77.58
通遼市	3,028,419	1,373,470	45.35	1,548,721	51.14
興安盟	1,588,787	652,385	41.06	887,684	53.67
呼倫貝爾市	2,710,000	231,276	8.6	2,119,645	81.85
烏海市	472,553	13,904	3.25	400,971	93.78

出典：2000年第5回国勢調査により筆者作成。

### 3.2 ホルチン方言の音韻特徴

ホルチン方言を内モンゴル標準語の基礎音(チャハル方言)と比較すると、以下のような目立つ特徴がある<sup>6</sup>。

①チャハル方言の母音「o」に対して、ほとんどの場合「u」, または「ə」が現れる。

例： チャハル                  ホルチン  
          obol                  ubel                  「冬」  
          tomor                tumer                「鉄」

同時、長母音「o:」に対して、二重母音「uə」, または長母音「ə:」が現れる。

例： チャハル                  ホルチン  
          dʒo:len                dʒuəlen 或 dʒə:len                  「柔らかい」

②チャハル方言の母音「u」に対して、ほとんどの場合「ɔ」, または「a」が現れる。

例： チャハル                  ホルチン  
          bulag                bɔləg                「泉」  
          burga:s                barga:s                「柳枝」

④チャハル方言の破擦音「ts」に対応して、摩擦音「ʃ」が現れる。

例： チャハル                  ホルチン  
          tsagan                ʃagan                「白い」  
          tsulu                  ʃolo                  「石」

<sup>5</sup> 現在の内モンゴル自治区は9つの地級市と3つの盟から構成されている。9つの地級市のうち、6つが1980年代以降に盟から地級市に再編されたものである。赤峰市は1983年に昭烏達盟から、通遼市は1999年に哲里木盟から、鄂爾多斯市は2001年に伊克昭盟から、呼倫貝爾市は2001年に呼倫貝爾盟から、烏蘭察布市は2003年に烏蘭察布盟から、巴彥淖爾市は2003年巴彥淖爾盟から再編された。

<sup>6</sup> 査干哈達 1985 「蒙古語科尔沁土語的語言系統」 『語言研究』 第2期 181～185頁。



## 4 調査概要

調査は2009年8月下旬から9月上旬にかけて行われた。

### 4.1 インフォーマント情報

インフォーマントは、その方言の話される地域に生まれ育ち、高校までの就学歴を持ちながら日本に滞在している20代から40代の男女11名からなる。詳細は表2の通りである。

表2 調査対象者一覧

話者番号	性別	年齢	履歴
HRM1	男	42	通遼市ホルチン左翼後旗巴音毛都嘎查出身。大学を漢語で受け、卒業後企業に勤務し、職業場の言語環境がほとんど漢語
HRF1	女	41	通遼市ホルチン左翼後旗塔本湖嘎查出身。すべての教育をモンゴル語で受け、卒業後教師の仕事に従事し、職業場の言語環境はモンゴル語と漢語のバイリンガル
HRF2	女	37	通遼市ホルチン左翼後旗吉日嘎拉鎮出身。大学を漢語で受けた。卒業後商売に従事し、職業場の言語環境がほとんど漢語
HRM2	男	27	通遼市ホルチン左翼後旗白音高勒嘎查出身。大学を漢語で受け、卒業1年後に来日
HRM3	男	26	通遼市ホルチン左翼後旗巴音毛都嘎查出身。大学を漢語で受け、卒業1年後に来日
HRF3	女	26	通遼市ホルチン左翼中旗宝拉戈嘎查出身。すべての教育をモンゴル語で受けた。卒業した直後に来日
HRF4	女	25	通遼市ホルチン左翼後旗阿都沁鎮出身。すべての教育をモンゴル語で受けた。卒業した直後に来日
HRF5	女	24	通遼市ホルチン左翼後旗边界嘎查出身。大学を漢語で受け、卒業した直後に来日
ZLF1	女	26	興安盟紮赉特旗扎赉特鎮出身。大学を漢語で授業受け、卒業1年後来日
ZLF2	女	24	興安盟ホルチン右翼中旗出身。すべての教育をモンゴル語で受けた。卒業した直後に来日
ZRM1	男	38	通遼市紮魯特旗宝干嘎查出身。すべての教育をモンゴル語で受け、卒業後教師の仕事に従事し、職業場の言語環境はモンゴル語と漢語のバイリンガル

[注] 話者番号は以下の情報を表す。一、二桁目は部族方言（HR=科爾沁方言 ZL=紮赉特方言 ZR=紮魯特方言）を示す。

三桁目は性別を表し、四桁目は個人番号を表す。

### 4.2 調査項目と調査方法

調査項目：親族語彙には呼びかける時に用いる親族呼称と言及する時に用いる親族名称がある。本調査では親族呼称を基本とした。調査項目としては本人を基準にし、上位2世代、同位世代、下位1世代まで合わせて4世代の親族語彙34と夫婦を表す語、合計36の親族語彙を対象とした。

調査方法：調査は面接の形で、「ーを直接呼掛けるとき何と言いますか」とモンゴル語で質問した。「父」と「母」に当たる単語の部分は漢語の口語「爸爸」と「妈妈」を用い、其の他はモンゴル語で、例えば「兄」を表す語に対して「兄弟姉妹の中で自分より年上の男」のように表現した。そこで、「名前で呼びかけます」と回答があった場合には、「他人に紹介する時に何と言いますか」と親族名称の言い方をたずねた。

## 5 調査結果

以下は、調査結果を基準となる人に近い親族関係から記録していく。

調査データを文字化する際国際音声字母 (IPA) を使用する。複数の語彙が併用される場合、間に「/」をつける。

比較のため、調査データのまとめ表の下に、内モンゴル語の標準音と漢語の呼称をあげておく。内モンゴル語の標準音では、一般的に呼称と名称は一致する<sup>7</sup>ので、ムンゲンゲレル (2008) を参考し国際音声字母で表記した標準音を挙げる。漢語呼称は劉柏林 (2001) を参考し、漢字で表記する。

### 5.1 呼称

#### 「父・母」を表す語

表 3

話者記号	部族方言	父	母
HRM1	科爾沁方言	a:bə:	əmə:
HRF1	科爾沁方言	a:bə:	əmə:
HRF2	科爾沁方言	a:bə:	əmə:
HRM2	科爾沁方言	a:bə	əmə:
HRM3	科爾沁方言	a:bə:	əmə:
HRF3	科爾沁方言	a:bə:	əmə:
HRF4	科爾沁方言	a:bə:	əmə:
HRF5	科爾沁方言	a:bə:	əmə:
ZLF1	紮萊特方言	a:bə:	mə:mə
ZLF2	紮萊特方言	a:bə:	mə:mə
ZRM1	紮魯特方言	a:bə:	əmə:
標準音		a:b	əɖʒ
漢語呼称		爸爸/爹	媽媽/娘

(1) 「父」を表す語の場合、全員が「a:bə:」と回答した。「a:bə:」は標準音（「a:b」）の語末に長

<sup>7</sup> ムンゲンゲレル 2008 「中国・内モンゴル東部地域のモンゴル諸方言の親族語彙について—ナイマン方言を中心に—」  
『日本語の探究：限りなきことばの知恵：村山七郎先生生誕百年記念論文集』 北斗書房 271 頁。

母音をつけたモンゴル語である。

(2)「母」を表す語の場合は2種類の呼称が見られる。科爾沁方言と紮魯特方言話者が「əmə:」を用い、紮萊特方言話者が「mə:mə」を用いる。「əmə:」は満州語の「母」を表す語（「əmə:」）からの借用語であるか、或いはモンゴル語の雌を表す語（「əmə」）からの意味転換であるのかが明らかされていない<sup>8</sup>が、一般的にはモンゴル語であると認識されている。「mə:mə」は標準内モンゴル語の人間の乳房を表す語（「mo:m」）から意味転化した語である<sup>9</sup>。

## 「夫・妻」を表す語

表 4

話者記号	部族方言	夫	妻
HRM1	科爾沁方言	名前	名前
HRF1	科爾沁方言	名前	名前
HRF2	科爾沁方言	名前	名前
HRM2	科爾沁方言	名前	名前
HRM3	科爾沁方言	名前	名前
HRF3	科爾沁方言	名前	名前
HRF4	科爾沁方言	名前	名前
HRF5	科爾沁方言	名前	名前
ZLF1	紮萊特方言	名前	名前
ZLF2	紮萊特方言	名前	名前
ZRM1	紮魯特方言	名前	名前
標準音		xurgən	bər
漢語呼称		名前 <sup>10</sup> /老公	名前/老婆

「夫・妻」を表す語彙の場合、表4のように全員が「名前で呼びかける」と回答した。そこで、親族名称の言い方をたずねた。回答は5.2で記述する。

## 「子とその配偶者」を表す語

表 5

話者記号	部族方言	息子	娘	息子の妻	娘の夫
HRM1	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF1	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF2	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前

<sup>8</sup> 格海日悍 波索德 2001 『蒙古語与蒙古族传统文化』 内蒙古教育出版社 220頁。

<sup>9</sup> 同上 102頁。

<sup>10</sup> 「名前」とは名前で呼びかけることを示す。

HRM2	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRM3	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF3	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF4	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF5	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
ZLF1	紮萊特方言	名前	名前	名前	名前
ZLF2	紮萊特方言	名前	名前	名前	名前
ZRM1	紮魯特方言	名前	名前	名前	名前
標準音		xu:	ixn	xu:bər	ixn xurgen
漢語呼称		名前	名前	名前	名前

「子とその配偶者」を表す語の場合、全員が「名前で呼びかける」と回答した。そこで、親族名称の言い方をたずねた。回答は 5.2 で記述する。

### 「兄・姉とその配偶者」を表す語

表 6

話者記号	部族方言	兄	姉	兄の妻	姉の夫
HRM1	科爾沁方言	adʒə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
HRF1	科爾沁方言	adʒə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
HRF2	科爾沁方言	adʒə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
HRM2	科爾沁方言	adʒa:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
HRM3	科爾沁方言	adʒə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
HRF3	科爾沁方言	adʒə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
HRF4	科爾沁方言	adʒə:/adʒa:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
HRF5	科爾沁方言	adʒa:/gə:gə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
ZLF1	紮萊特方言	gə:gə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
ZLF2	紮萊特方言	adʒə:	ɖʒə:ɖʒə:	bərgi:	xurn ax
ZRM1	紮魯特方言	aga:	gə:gə:	bərgən	xurgen ax
標準音		ax	əgɭ	bərgən	xurgenax
漢語呼称		哥哥	姐姐	嫂子	姐夫

(漢語からの借用語はイタリック体で表記する。以下同じ。)

(1) 「兄」を表す語の場合次の 3 つのタイプが見られる。

#### ①モンゴル語使用タイプ

科爾沁方言話者である HRM1, HRF1, HRF2, HRM3, HRF3 と紮萊特方言話者である ZLF2 は「adʒə:」を用いる。科爾沁方言話者である HRM2 は「adʒa:」を用い、科爾沁方言話者である HRF4

は「adʒa:」と「adʒe:」を併用する。格海日悍・波索徳（2001）によれば、「adʒe:」/「adʒa:」/は以前、満州語の長男の意味を表す語「adʒi」から借用されたものと見られる<sup>11</sup>が、今一般的にモンゴル語と認識されている。紮魯特方言の話者 ZRM1 は「aga:」を用いている。「aga:」はナイマン方言では「姉」を表す語として用いられ<sup>12</sup>、モンゴル語族のモンゴル語では「父の兄弟」を表す語として用いられる<sup>13</sup>。こういう意味では、「aga:」は以前のモンゴル語族の諸方言では自分より年上の親族の総称であったかもしれない。

## ②モンゴル語と漢語借用語併用タイプ

科爾沁方言話者である HRF5 は「adʒa:」と「ge:ge:」を併用している。「ge:ge:」は漢語（「哥哥」）からの借用語である。

## ③漢語借用語使用タイプ

紮萊特方言話者である ZLF1 は「ge:ge:」を用いている。

### (2)「姉」を表す語の場合：

科爾沁方言と紮萊特方言では全員が「dʒə:dʒə:」を用いている。「dʒə:dʒə:」は漢語の姉を表す語（「姐姐」）から借用されたものである。紮魯特方言話者の ZRM1 は「ge:ge:」を用いる。「ge:ge:」は以前、満洲語の女性の敬称から転用されたと見られる。

### (3)「兄の妻」を表す語の場合：

科爾沁方言と紮萊特方言話者全員は「bergi:」を用いる。「bergi:」は内モンゴル語の標準音（「bergen」）の変化形である。紮魯特方言話者 ZRM1 は内モンゴル語の標準音と一致した言い方「bergen」を用いている。

### (4)「姉の夫」を表す語の場合：

科爾沁方言と紮萊特方言話者全員は「xurn ax」を用い、「xurn ax」は内モンゴル語の標準音（「xurgən ax」）の変化形である。魯特方言話者 ZRM1 は標準音と一致した言い方「xurn ax」を用いている。

## 「弟・妹とその配偶者」を表す語

表 7

話者記号	部族方言	弟	妹	弟の妻	妹の夫
HRM1	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF1	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF2	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRM2	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRM3	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF3	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前

<sup>11</sup> 前掲 格海日悍・波索徳 2001 217 頁。

<sup>12</sup> 前掲 ムンゲンゲレル 2008 273 頁。

<sup>13</sup> 同上 格海日悍・波索徳 2001 104 頁。

HRF4	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
HRF5	科爾沁方言	名前	名前	名前	名前
ZLF1	紮萊特方言	名前	名前	名前	名前
ZLF2	紮萊特方言	名前	名前	名前	名前
ZRM1	紮魯特方言	名前	名前	名前	名前
標準音		du:	ixn du:	du:bər	du: xurgən
漢語呼称		名前/弟弟	名前/妹妹	名前/弟妹	名前/妹夫

「弟・妹とその配偶者」に対しては全員が「名前で呼びかける」と回答した。そこで、親族名称の言い方をたずねた。回答は 5.2 で記述する。

### 「祖父母」を表す語

表 8

話者記号	部族方言	父方の祖父	父方の祖母	母方の祖父	母方の祖母
HRM1	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
HRF1	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
HRF2	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
HRM2	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
HRM3	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
HRF3	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
HRF4	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
HRF5	科爾沁方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
ZLF1	紮萊特方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
ZLF2	紮萊特方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
ZRM1	紮魯特方言	jə:jə	nɛ:nɛ	naga: jə:jə	naga: nɛ:nɛ
標準音		obog	əməg	nagaʃobog	nagaʃ əməg
漢語呼称		爷爷	奶奶	老爷 /外公	姥姥/外婆

(1) 「父方の祖父」と「父方の祖母」を表す語では全員が漢語の「爷爷」, 「奶奶」から借用された「jə:jə」, 「nɛ:nɛ」を用いている。

(2) 「母方の祖父」と「母方の祖母」を表す語では全員が「naga:jə:jə」と「naga:nɛ:nɛ」を用いる。「naga:」は母方の親族を表す語「nagaʃ」の語根であり, 「naga: jə:jə」と「naga: nɛ:nɛ」は「モンゴル語+漢語」の構成となる混交形である。

## 「父方の伯父・叔父とその配偶者」を表す語

表 9

話者 記号	部族方言	父方の伯父	父方の叔父	父方の伯父の妻	父方の叔父の妻
HRM1	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ʃu:ʃu</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə:</i>
HRF1	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ma:ma:</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə:</i>
HRF2	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ʃu:ʃu</i>	<i>da:njaŋ</i>	<i>ʃin.sə:</i>
HRM2	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ma:ma:</i>	<i>da.mə:m</i>	<i>ʃin.sə:</i>
HRM3	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ʃu:ʃu</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə:</i>
HRF3	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ma:ma:</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə: / jaŋa</i>
HRF4	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ʃu:ʃu / ma:ma:</i>	<i>da:njaŋ</i>	<i>ʃin.sə:</i>
HRF5	科爾沁方言	<i>da:ja</i>	<i>ʃu:ʃu</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə:</i>
ZLF1	紮萊特方言	<i>da:jɛ</i>	<i>ʃu:ʃu</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə:</i>
ZLF2	紮萊特方言	<i>da:jɛ</i>	<i>ʃu:ʃu</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə:</i>
ZRM1	紮魯特方言	<i>da:ja</i>	<i>ʃu:ʃu</i>	<i>da.mə:</i>	<i>ʃin.sə:</i>
標準音		<i>ixabag a:b</i>	<i>bag abag a:b</i>	<i>ixabagəɖʒ</i>	<i>bagabagəɖʒ</i>
漢語呼称		大爷/大伯	叔叔	大娘/大妈	婶子

(1) 「父方の伯父」を表す語の場合、科爾沁方言と紮魯特方言の話者全員が「*da:ja*」を用い、紮萊特方言の話者全員が「*da:jɛ*」を用いている。「*da:jɛ*」は漢語の「大爷」からそのまま借用されたものであり、「*da:ja*」は「大爷」の音韻変化である。

(2) 「父方の叔父」を表す語の場合は3つのタイプが見られる。

## ①モンゴル語使用タイプ

科爾沁方言話者のHRF1, HRM2, HRF3は「*ma:ma:*」を用いる。「*ma:ma:*」はモンゴル語の年配の僧侶の尊称語（「*ma:m*」）の語末に長母音をつけたものの意味転換語である。

## ②モンゴル語と漢語借用語併用タイプ

科爾沁方言話者HRF4は「*ʃu:ʃu*」と「*ma:ma:*」を併用する。「*ʃu:ʃu*」は漢語（「叔叔」）からの借用語である。

## ③漢語借用語使用タイプ

科爾沁方言話者のHRM1, HRF2, HRM3, HRF5と紮萊特方言話者ZLF1, ZLF2と紮魯特方言話者ZRM1は「*ʃu:ʃu*」を用いる。

(3) 「父方の伯父の妻」を表す語の場合は2つのタイプが見られる。

## ①「漢語＋モンゴル語」混交タイプ

科爾沁方言話者HRM1, HRF1, HRM3, HRF3, HRF5と紮萊特方言と紮魯特方言話者全員が「*da.mə:*」を用い、科爾沁方言話者HRM2は「*da.mə:m*」を用いている。「*da.mə:*」はホルチン方言本来の「*əme:*」の母音が脱落したもので、いずれも「漢語（「大」）＋モンゴル語」の混交形である。

## ②漢語借用語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRF2 と HRF4 は漢語からの借用語「da:njaŋ」（「大娘」）を用いている。

(4)「父方の叔父の妻」を表す語の場合、科爾沁方言話者の HRF3 は「jinse:」と「jaŋa」を併用し、残りが「jinse:」を用いている。「jinse:」は漢語の「婶子」から借用されたものであり、「jaŋa」は漢語の「嬢娘」から借用されたものである。

### 「父方の伯母・叔母とその配偶者」を表す語

表 10

話者記号	部族方言	父方の伯母	父方の叔母	父方の伯母の夫	父方の叔母の夫
HRM1	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
HRF1	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
HRF2	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
HRM2	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
HRM3	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
HRF3	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
HRF4	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
HRF5	科爾沁方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
ZLF1	紫葉特方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
ZLF2	紫葉特方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
ZRM1	紫魯特方言	gu:gu:	gu:gu:	guja:a:b	guja:a:b
標準音		abag əgʃ	abag əgʃ	abag xurgen a:b	abag xurgen a:b
漢語呼称		姑姑/姑媽	姑姑/姑媽	姑父	姑父

(1)「父方の伯母」と「父方の叔母」を表す語の場合、全員が漢語（「姑姑」）からの借用語「gu:gu:」を用いている。

(2)「父方の伯母の夫」と「父方の叔母の夫」を表す語の場合、全員が「guja: a:b」を用いている。「guja」は漢語の「娘の夫」を表す語（「姑爷」）から借用されたもので、「guja: a:b」は「漢語＋モンゴル語」の構造となる。

### 「母方の伯父・叔父とその配偶者」を表す語

表 11

話者記号	部族方言	母方の伯父	母方の叔父	母方の伯父の妻	母方の叔父の妻
HRM1	科爾沁方言	naga: a:b	ɖʒu:ɖʒu	nagə: ə:j	ɖʒu:mu
HRF1	科爾沁方言	ɖʒu:ɖʒu	ɖʒu:ɖʒu	ɖʒu:mu	ɖʒu:mu
HRF2	科爾沁方言	ɖʒu:ɖʒu	ɖʒu:ɖʒu	ɖʒu:mu	ɖʒu:mu
HRM2	科爾沁方言	ɖʒu:ɖʒu	ɖʒu:ɖʒu	ɖʒu:mu	ɖʒu:mu



HRM3	科爾沁方言	naga: a:b	ᠳᠤᠰᠤ	nagə: ə:j	ᠳᠤᠮᠤ
HRF3	科爾沁方言	ᠳᠤᠰᠤ	ᠳᠤᠰᠤ	ᠳᠤᠮᠤ	ᠳᠤᠮᠤ
HRF4	科爾沁方言	naga: a:b	ᠳᠤᠰᠤ	nagə: ə:j	ᠳᠤᠮᠤ
HRF5	科爾沁方言	naga: a:b	ᠳᠤᠰᠤ	nagə: ə:j	ᠳᠤᠮᠤ
ZLF1	紮萊特方言	ᠳᠤᠰᠤ	ᠳᠤᠰᠤ	ᠳᠤᠮᠤ	ᠳᠤᠮᠤ
ZLF2	紮萊特方言	ᠳᠤᠰᠤ	ᠳᠤᠰᠤ	ᠳᠤᠮᠤ	ᠳᠤᠮᠤ
ZRM1	紮魯特方言	naga: a:b	ᠳᠤᠰᠤ	nagə: ə:j /naga: mə:	ᠳᠤᠮᠤ
標準音		ixnagaɮʃ a:b	bagnagaɮʃ a:b	ixnagaɮʃ əᠳʒ	bagnagaɮʃ əᠳʒ
漢語呼称		舅舅	舅舅	舅媽	舅媽

(1) 「母方の伯父」を表す語は2つタイプが見られる。

①モンゴル語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRM1, HRM3, HRF4, HRF5 と紮魯特方言話者の ZRM1 はモンゴル語の母方の親族を指す語「naga:」と父を表す語「a:b」からなる複合語「naga: a:b」を用いている。

②漢語借用語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRF1, HRF2, HPM2, HRF3 と紮萊特方言話者の ZLF1, ZLF2 は「ᠳᠤᠰᠤ」を用いる。「ᠳᠤᠰᠤ」は漢語(「舅舅」)からの借用語である。

(2) 「母方の叔父」を表す語の場合、全員は漢語からの借用語(「ᠳᠤᠰᠤ」)を用いる。

(3) 「母方の伯父の妻」を表す語は2つのタイプが見られた。

①モンゴル語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRM1, HRM3, HRF4, HRF5 はモンゴル語の「naga: ə:j」を用い、「ə:j」はモンゴル語の「母」を表す語「əᠳʒ」の音韻変化である。紮魯特方言の話者 ZRM1 はモンゴル語の「naga: ə:j」と「naga: mə:」を併用している。

②漢語借用語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRF1, HRF2, HPM2, HRF3 と紮萊特方言話者の ZLF1, ZLF2 は「ᠳᠤᠮᠤ」を用い、「ᠳᠤᠮᠤ」は漢語の「舅母」(「舅媽」の文章語)の変化形である。

(4) 「母方の叔父の妻」を表す語の場合、全員は漢語からの借用語「ᠳᠤᠮᠤ」を用いる。

## 「母方の伯母・叔母とその配偶者の配偶者」を表す語

表 12

話者記号	部族方言	母方の伯母	母方の叔母	母方の伯母の夫	母方の叔母の夫
HRM1	科爾沁方言	naga: ə:j	i:naŋ	naga: a:b	i:da: a:b
HRF1	科爾沁方言	naga: ə:j	i:naŋ	naga: a:b	i:da: a:b
HRF2	科爾沁方言	i:naŋ	i:naŋ	i:da: a:b	i:da: a:b
HRM2	科爾沁方言	i:naŋ	i:naŋ	i:da: a:b	i:da: a:b
HRM3	科爾沁方言	naga: ə:j	i:naŋ	naga: a:b	i:da: a:b

HRF3	科爾沁方言	<i>jaŋa</i>	<i>jaŋa</i>	<i>i:da: a:b</i>	<i>i:da: a:b</i>
HRF4	科爾沁方言	<i>naga: ə:j</i>	<i>i:naŋ</i>	<i>naga: a:b</i>	<i>i:da: a:b</i>
HRF5	科爾沁方言	<i>naga: ə:j</i>	<i>i:naŋ</i>	<i>naga: a:b</i>	<i>i:da: a:b</i>
ZLF1	紮萊特方言	<i>i:naŋ</i>	<i>i:naŋ</i>	<i>i:da: a:b</i>	<i>i:da: a:b</i>
ZLF2	紮萊特方言	<i>ɛ:naŋ</i>	<i>ɛ:naŋ</i>	<i>ɛ:da: a:b</i>	<i>ɛ:da: a:b</i>
ZRM1	紮魯特方言	<i>naga: ə:j</i>	<i>i:naŋ</i>	<i>naga: a:b</i>	<i>i:da: a:b</i>
標準音		<i>ixnagaŋ ɛgɬ</i>	<i>bagnagaŋ ɛgɬ</i>	<i>ixnagaŋ xurgən abag</i>	<i>bagnagaŋ xurgən abag</i>
漢語呼称		姨/姨媽	姨/姨媽	姨父	姨父

(1) 「母方の伯母」を表す語には2つのタイプが見られる。

①モンゴル語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRM1, HRF1, HRM3, HRF4, HRF5 と紮魯特方言の話者 ZRM1 は「*naga: ə:j*」を用いる。

②漢語借用語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRF2, HPM2 と紮萊特方言話者 ZLF1 は「*i:naŋ*」を用い、科爾沁方言話者の HRF3 は「*jaŋa*」を用い、紮萊特方言話者 ZLF2 は「*ɛ:naŋ*」を用いている。「*i:naŋ*」, 「*jaŋa*」, 「*ɛ:naŋ*」いずれも漢語（「姨娘」）からの借用語である。

(2) 「母方の叔母」を表す語の場合：

科爾沁方言話者の HRM1, HRF1, HRF2, HPM2, HRM3, HRF4, HRF5 と紮魯特方言の話者 ZRM1, 紮萊特方言話者の ZLF1 は「*i:naŋ*」を用い、科爾沁方言話者の HRF3 は「*jaŋa*」を用いる。紮萊特方言話者の ZLF2 は「*ɛ:naŋ*」を用いていて、全員が漢語からの借用語である。

(3) 「母方の伯母の夫」を表す語には2つのタイプがある。

①モンゴル語使用タイプ

科爾沁方言話者の HRM1, HRF1, HRM3, HRF4, HRF5 と紮魯特方言の話者 ZRM1 はモンゴル語の「*naga: a:b*」を用いている。

②「漢語+モンゴル語」混交タイプ

科爾沁方言話者の HRF2, HPM2, HRF3 と紮萊特方言話者の ZLF1 は「*i:da a:b*」を用い、紮萊特方言話者の ZLF2 は「*ɛ:da a:b*」を用いる。「*i:*」「*ɛ:*」は漢語の「姨」から借用されたもので、このタイプは「漢語（姨）+漢語（大）+モンゴル語（*a:b*）」構造となる。

(4) 「母方の叔母の夫」を表す語の場合：

科爾沁方言話者と紮魯特方言の話者の全員、紮萊特方言の ZLF1 は「*i:da: a:b*」を用い、紮萊特方言話者の ZLF2 は「*ɛ:da: a:b*」を用いる。

## 5.2 名称

### 「夫妻」を表す語

表 13

話者記号	部族方言	夫	妻
HRM1	科爾沁方言	xurgən	bir
HRF1	科爾沁方言	xurgən	bir
HRF2	科爾沁方言	xurgən	bir
HRM2	科爾沁方言	xurgən	bir
HRM3	科爾沁方言	xurgən	bir
HRF3	科爾沁方言	xurgən	bir
HRF4	科爾沁方言	xurgən	bir
HRF5	科爾沁方言	xurgən	bir
ZLF1	紮萊特方言	xurgən	bir
ZLF2	紮萊特方言	xurgən	bir
ZRM1	紮魯特方言	xurgən	bər
標準音		xurgən	bər

「夫」を表す語の場合、全員が「xurgən」という内モンゴル語の標準音と一致した言い方を用いている。「妻」を表す語の場合、紮魯特方言では「bər」という内モンゴル語の標準音と一致した言い方を用いているに対して、科爾沁方言と紮萊特方言では「bir」という言い方を用いる。

### 「子とその配偶者」を表す語

表 14

話者記号	部族方言	息子	娘	息子の妻	娘の夫
HRM1	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
HRF1	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
HRF2	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
HRM2	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
HRM3	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
HRF3	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
HRF4	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
HRF5	科爾沁方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
ZLF1	紮萊特方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
ZLF2	紮萊特方言	xu:	ixn	xu: bir	ixn xurgən
ZRM1	紮魯特方言	xu:	ixn	xu: bər	ixn xurgən
標準音		xu:	ixn	xu: bər	ixn xurgən

表 14 のように「息子」,「娘」,「娘の夫」を表す語の場合,全員が内モンゴル語の標準音と一致した言い方「xu」,「ixn」,「ixn xurgen」を用いている。「息子の妻」を表す語の場合,紮魯特方言では「xu bər」という内モンゴル語の標準音と一致した言い方を用いているに対して,科爾沁方言と紮萊特方言では「xu bir」という言い方を用いる。

### 「弟妹とその配偶者」を表す語

表 15

話者記号	部族方言	弟	妹	弟の妻	妹の夫
HRM1	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
HRF1	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
HRF2	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
HRM2	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
HRM3	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
HRF3	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
HRF4	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
HRF5	科爾沁方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
ZLF1	紮萊特方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
ZLF2	紮萊特方言	du:	ixn du:	du: bir	du: xurgen
ZRM1	紮魯特方言	du:	ixn du:	du: bər	du: xurgen
標準音		du:	ixn du:	du: bər	du: xurgen

表 15 のように「弟」,「妹」,「妹の夫」を表す語の場合,全員が内モンゴル語の標準音と一致した言い方「du:」,「ixn du:」,「du: xurgen」を用い,「弟の妻」を表す語の場合,紮魯特方言では「du: bər」と内モンゴル語の標準音と一致した言い方を用いているに対して,科爾沁方言と紮萊特方言では「du: bir」という言い方を用いている。

## 6. ホルチン方言の親族呼称の実態

調査結果をまとめるとホルチン方言の親族呼称の構成は表 16 の通りになる。

表 16 ホルチン方言の親族呼称の構成

語 集	ホルチン方言			標準音	漢語
	モンゴル語系	漢語借用	混交形		
父	a:bə:			a:b	爸爸(爹)
母	əmə:/mə:mə			ədʒ	妈妈(娘)
夫	名前			xurgen	名前 <sup>14</sup> /老公

<sup>14</sup> 名前とは名前で呼びかけることを示す。

内モンゴル語の親族呼称の実態

妻	名前			bər	名前/老婆
息子	名前			xu:	名前
娘	名前			ixn	名前
息子の妻	名前			xu:bər	名前
娘の夫	名前			ixn xurgən	名前
兄	adʒe:/adʒa:/aga:	ge:ge		ax	哥哥
姉	ge:ge:	ɖʒə:ɖʒə:		əgtʃ	姐姐
兄の妻	bərgi:/bərgən			bərgən	嫂子
姉の夫	xurn ax/xurgən ax			xurgənax	姐夫
弟	名前			du:	名前/弟弟
妹	名前			ixn du:	名前/妹妹
弟の妻	名前			du:bər	名前/弟妹
妹の夫	名前			du: xurgən	名前;/妹夫
父方の祖父		jə:jə		obog	爷爷
父方の祖母		nɛ:nɛ		əmæg	奶奶
母方の祖父			naga: jə:jə	nagaʃobog	老爷/外公
母方の祖母			naga: nɛ:nɛ	nagaʃ əmæg	姥姥/外婆
父方の伯父		da:ja/da:jɛ		ixabag a:b	大爷/大伯
父方の叔父	ma:ma:	ʃu:ʃu		bag abag a:b	叔叔
父方の伯父の妻		da:njaŋ	da:mə:/da:mə:m	ixabagəɖʒ	大娘/大妈
父方の叔父の妻		ʃinsə:/jaŋa		bxabagəɖʒ	婶子
父方の伯母		gu:gu:		abag əgtʃ	姑姑/姑妈
父方の叔母		gu:gu:		abag əgtʃ	姑姑/姑妈
父方の伯母の夫			guja:a:b	abag xurgən a:b	姑父
父方の叔母の夫			guja:a:b	abag xurgən a:b	姑父
母方の伯父	naga: a:b	ɖʒu:ɖʒu		ixnagaʃ a:b	舅舅
母方の叔父		ɖʒu:ɖʒu		bagnagaʃ a:b	舅舅
母方の伯父の妻	nagə: əj/naga: mə:	ɖʒu:mu		ixnagaʃ əɖʒ	舅妈
母方の叔父の妻		ɖʒu:mu		bagnagaʃ əɖʒ	舅妈
母方の伯母	naga: əj	i:naŋ/jaŋa/ɛ:naŋ		ixnagaʃ əgtʃ	姨/姨妈
母方の叔母		i:naŋ/jaŋa/ɛ:naŋ		bagnagaʃ əgtʃ	姨/姨妈
母方の伯母の夫	naga: a:b		i:da: a:b/ɛ:da: a:b	ixnagaʃ xurgən abag	姨父
母方の叔母の夫			i:da: a:b/ɛ:da: a:b	bagnagaʃxurgən abag	姨父

表 16 から以下のことが分かる。

- (1) 下の世代、または同世代のうち本人より年下の親族を呼びかける時には「名前」で呼びかけるのが一般的である。
- (2) 核家族関係を表す語の場合、「姉」を表す語以外ほとんどがモンゴル語系本来の語彙を用いる。例えば、「父 (a:bə:)」母 (əmə:mə:mə)」兄 (adʒe:adʒa:aga:)」兄の妻 (bergi:/bergen)」姉の夫 (xurn ax/xurgen ax)」などがある。
- なぜ「姉」を表す語のみが漢語からの借用を用いるのか、いまのところ明確な説明がつかないが、標準音での「əgtʃ」は「姉」を表す語のみではなく、世代を超えて、両親の姉妹を表す語（「abag əgtʃ」「nagatʃ əgtʃ」）にも用いられ、世代の区分を持たない特徴がその一つの要素になるだろうと思われる。
- (3) 核家族以外の親族関係を表す語彙は、(2) に比べて漢語の影響を強く受けている。その際、父方の親族を表す語（漢語借用語）が基準となり、母方の親族を表す語は、それにモンゴル語を組み合わせた混交形で表わされるのが一般的である。例えば、「父方の祖父母」を表す語は漢語からの借用語（「jə:jə」「nɛ:nɛ」）を用いるのに対し、母方の親族を表す語は、それにモンゴル語（「naga:」）を組み合わせた混交形（「naga:jə:jə」「naga:nɛ:nɛ」）で表わされる。
- (4) 「父方の親族」を表す語と「母方の親族」を表す語の違いは、次の現象にも見ることができる。例えば、父方に関しては、「伯父」と「叔父」を全員が区別している（「da:ja/a:jɛ」（漢語借用語）」と「ma:ma:」（モンゴル語）」で区別するのが4人、「da:ja/a:jɛ」（漢語借用語）」と「ju:ju」（漢語借用語）」で区別するのが8人）のに対し、母方に関しては、「伯父」と「叔父」を区別するのは11人中5人しかいない（「naga:a:b」（モンゴル語）」と「ɖu:ɖu」（漢語借用語）」で区別するのが5人、区別せずに「ɖu:ɖu」（漢語借用語）」を使うのが6人）。その理由として、漢語では「母方の伯父」と「母方の叔父」を区別せずにどちらも「舅舅」で呼ぶことが考えられる。区別する5人に関しては、いずれも年上の「伯父」の方にモンゴル語が残っている。
- (5) 同じ父方の親族でも、「男の親族」と「女の親族」により違いがある場合がある。例えば、例えば、父方の「伯父」と「叔父」は(5)に挙げたように区別があるが、父方の「伯母」と「叔母」は全員が「gu:gu:」（漢語借用語）」で区別がない。ただし、母方の親族の場合は、「男の親族」と「女の親族」による違いは見られない。

モンゴル語の親族呼称は、①世代における上下関係、②同世代における年齢の上下関係（伯父・叔父など）、③父方の親族か母方の親族かの違い、④男の親族か女の親族かの違い、といった要素が組み合わさって構成されているが、ホルチン方言が漢語を取り入れる際にも、この4つの要素が働いて、どの部分に漢語を取り入れるか（どの部分にモンゴル語を残すか）が決まるようである。

## 7 まとめ

本稿の分析により、内モンゴル語ホルチン方言の親族呼称のバイリンガル状況の実態とその言語的な特徴の一端を明らかにした。ホルチン方言の親族呼称においては、内モンゴル語

本来の語と漢語借用語の両方語形が混在している。つまり、核家族関係を表す語のほとんどは内モンゴル語本来の語を用い、これに対して父方と母方の親族関係を表す語は漢語の影響を比較的強く受けている。その際、父方の親族を表す語（漢語借用語）が基準となり、母方の親族を表す語は、それとモンゴル語の組み合わせた混交形で表わされる。

ホルチン方言と近隣となる中国延辺朝鮮語の親族呼称は漢語の影響を受けることはあまりないと見られている。それは、中国朝鮮語の親族呼称が細かく発達しており、または従来朝鮮族は朝鮮族の中から配偶者を選ぶことが一般的であるためと述べられている<sup>15</sup>。

本稿では、ホルチン方言の親族語彙における漢語からの借用語について考察したが、その他に内モンゴル語の親族呼称の内在的な構造もその一つの要素になるだろうと考えられる。内モンゴル語の親族呼称の構造が比較的細かく発展していることと漢語の借用語との関係、または親族語が親族以外の人物にも転用されることについても考察すべきであるが、これについては今後の課題とする。

## 参考文献

- 亀井孝 河野六郎 千野栄一編 1996 『言語学大辞典』第2巻 世界言語編 三省堂 pp. 1426-1433。  
 ムンゲンゲレル 2008 「中国・内モンゴル東部地域のモンゴル諸方言の親族語彙について—ナイマン方言を中心に—」 『日本語の探究：限りなきことばの知恵：村山七郎先生生誕百年記念論文集』 北斗書房 pp. 271-286。  
 劉柏林 2001 「中日の親族呼称について」 愛知大学語学教育研究室紀要『言語と文化』 第5号 pp. 61-78。  
 宮下尚子 2007 『言語接触と中国朝鮮語の成立』 九州大学出版社 pp. 119-123。  
 曹道巴特爾 2004 「語言接觸所產生的蒙古族直系血親族語稱謂詞地區差別」 『滿語研究』 第2期 pp. 103-108。  
 那順巴依爾 2005 「內蒙古牧區親族制度變遷研究」 『中央民族大學學報』 第1期 pp. 66-72。  
 查干哈達 1985 「蒙古語科爾沁土語的語言系統」 『語言研究』 第9期 pp. 180-195。  
 波・索德 2005 「蒙古語科爾沁土語中的漢借語」 『民族語言』 第5期 pp. 77-80。  
 格海日悍 波索德 2001 『蒙古語与蒙古族傳統文化』 內蒙古教育出版社 pp. 84-284。

## ホームページ

中国国家统计局「<http://www.stats.gov.cn/>」

<sup>15</sup> 宮下尚子 2007 『言語接触と中国朝鮮語の成立』 九州大学出版社 119～120頁。